

序：前回の礼拝2部から「主の祈り」の御言葉を味わっている。

前回、「主の祈り」は最も素晴らしい祈りである事を学んだ。呼びかけの深い意味。

「天にます」：天と地のすべてを造られた偉大な全能の聖い、
本来は罪ある私達は簡単には近づけない方。

「私たちの父よ」：ひとり子であるキリストなる神の十字架の恵み（私達の罪の完全な償い）を通して（主の御名によって）、私達を心から愛し、恵もうと待っておられる愛溢れる霊的な親として近づける。
最初の祈りは「御名があがめられますように」。

これは、つらい時、幼子のように正直に「助けて下さい」と祈る事と矛盾しない。つらい時正直に祈って良いと同時に、これまで「主が良くして下さった恵み」を数え忘れないで、御名を崇め感謝する事も忘れない。御名を崇め感謝する時、ますます神を近くに感じる事が出来る。そして課題も正直に祈れる。

私の個人的な証しとしては、前回「御名が崇められますように」が、神が与えられた人生の目的と教えられてから、お便りやメールで最初に「御名を賛美します、崇めます」という言葉が、ただの社交辞令ではなく、心からのものに変えられて来た。感謝！

本日は2番目の祈りを見たい。主が教えられた順序には深い意味がある。「御国が来ますように」。

1. 今現在、罪の故に、もう一つの国、悪魔の国、暗黒の国がある。真の神とその栄光に敵対する国がある。しかし神は、悪魔の国、支配があるにもかかわらず、やがてご自身の国を設立する事を啓示して下さった。悪魔が暫くの間、この世を神の制限の中で支配しているが、神は再びご自身の権威を現わし、やがてご自身の御国を確立される事を啓示して下さった（黙示録他）。

主は宣教を始められた時「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」と言われた。御国の真の意味は、神の統治、支配。

2. 御国には、3つの面がある。

①御国（神の御支配）は、ある意味で、すでに来ている。

「わたしが、神の指によって悪霊どもを追い出しているのなら、神の国はあなたがたに来ているのです」ルカ11：20。

私達の罪の為に十字架で死に、死の勝利し、復活された全能の主は、神として主権、力を行行使し、この約2015年間、世界中の一人一人（私達も）を、悪魔の支配（国）から救い出して、ご自身の国、支配に入れておられる。

「神は、私達を暗やみの圧政から救い出し、愛する御子のご支配（この原語は、御国が来ますように「御国」と同じ）の中に移してくださいました」コロサイ1：13。

何という恵み！悪魔の支配から御子の支配に移されているゆえに、主に拠り頼み、罪や悪習と戦う時、主の力で勝利できる。

②御国（神の御支配）はまた、今、この瞬間、主を信じ、主に従うすべての人の心と生活の中にある。

御国は、教会の中に、御言葉を分かち合い祈り合うグループの中に、キリスト者すべての心の中に

現存する。

「神の国は、あなたがたのただ中にあるのです」ルカ17：21。

③やがて主が再臨なさり、御国が到来しようとしている。主は今も御業を行っておられ、御国が完成するまで続けられる。

3. この祈りで、大切なポイントがある。

それは、「神の国、神の御支配が、まず、私の心に来ますように」という切望が必要という事。ただ何となく祈りではない。神の御支配という御国が私達の心と生活に拡大するようにという熱い祈り。

洗礼は、ゴール、完成ではなく、入口、スタート。それは、御国、神の御支配が、自分の心に始まったという事である。

私達の心には霊的な王座がある。主を心に迎える前は、その王座に自分、自我が座っている。自分が心の王座から降りて、主を信じ洗礼を受けるといふ恵みにより、主が私の心の王座に着かれ、神の支配、御国が私の心で始まる。素晴らしい事が起きる。

しかし、私達の心にはまだ、罪が残っており、悪魔も悪の誘惑をするので、油断していると、あるいは知らず知らず、自分の罪、欲望のままに日々を送る人生に戻ってしまう事がある。そのような時は、心の王座から主をおろし、自分が心の王座に戻っている。そのような時は、聖い神の御国が広がらず、自分の罪、欲望、自我の王国が広がってしまっている。神にも人にも仕えない人生となる。自分の悪習、欲望に支配された、縛られた人生となる。そこには、真の幸せ、心の深い満たしはない。

主は、私達のそのような弱さをご存知でこの「御国が来ますように」と祈るように教えられた。心から感謝したい。日々悔い改めて、祈りたい。

私達の心にはいくつもの自分が支配している部屋がある。それぞれの部屋の鍵を主に明け渡し、主に支配していただく時、私達の心に御国、神の御支配が広がって行く。まず私の心に「御国が来ますように」と心から祈りたい。「私が心の王座から降りて、へりくだり、主が心の王座に着かれ、まず私の心と生活の中で御国、神の御支配、神の御心が広がりますように」と。主の祈りを祈る度に、この意味を込めて心から祈りたい。

証し：まねをされる必要はないが、私の場合は、この祈りをする時、手を胸に当てて、まず私の心に御国（自分の罪の支配ではなく神の支配）が来ますようにと祈る。

4. やがて主が再臨なさり、御国が到来しようとしている。

主は今も御業を行っておられ、御国が完成するまで続けられる。この祈りは「神の国、御支配が、世界中の人々に来るように」という偉大な祈り。神の御支配という御国が私たち自身の心に拡大するようにとの祈り。

私達がまず、神を崇め礼拝し、生涯を神に明け渡し、神に支配され導かれる度合いに応じて、御国は私達の心に広がる。

そのようにして神に満たされた私達が、家族、知人、友人に愛の関係作りをし、福音を伝え、救われ、人々の心と生活に御国、神の御支配が来ますようにとの祈り。

そして、時満ちて、御国完成の為に「主イエスよ、来てください」（黙示録22：20）との祈り。

5. 励まし。

私達は、環境、問題、悩みに、思い煩いに支配され易い。御国（神の支配）が来ますようにと祈る時、神が私達の心を支配され、思い煩いを追い出され、平安を与えられる。